

子どもの遊びとスケートボード(1) -スケートボードと他の遊びのコストの比較-

著者	小関 慶太, 小松 仁美
雑誌名	リカレント研究論集
号	3
ページ	44-57
発行年	2023-03-31
URL	http://doi.org/10.34381/00000136

【研究論文】

子どもの遊びとスケートボード (1)

-スケートボードと他の遊びのコストの比較-

キーワード: 遊びのコスト 子どもの遊び スケートボード 室内 屋外

小関 慶太(KOSEKI Keita)

小松 仁美(KOMATSU Hitomi)

1. はじめに

オープンスペースでの子どもの遊びの種類は、おままごと、砂場遊び、木登り、水遊びといった想像力や公園¹資源を活かした遊びから公園設置の遊具、持ち込んだ遊具を活用した遊びがある。その他、室内での遊びとして映画鑑賞、プレイランド²、ゲームセンター等がある。このような遊びは、どちらかという和一時的な遊びであるのに対してスケートボードやバスケットボール、サッカー、バドミントン³、卓球等は、道具を準備して連続的（継続的な）遊びであると考えられる。すなわち、これらの遊びのコスト面を単純に比較することが適当であるかに関しては、疑問が残るところではあるが、本稿では、子どもたちの遊びにかかる費用面について今後スケートボード研究を行う上での予備的な研究としてまとめた

2. 子どもの遊びと費用面

公園における遊びに関しては、早川・小関・磯崎（2021）、小関（2021、2023）、小関・小松（2023 著書）でまとめた。遊びの空間（zone）は、都市公園や児童公園などのオープンスペース、公営の施設（体育館、スポーツセンター）、専用パークなどが挙げられ本稿ではこの3点より機材費や利用料の面から遊びに発生するコストの概算を考えてみたい。

(1) 都市公園、児童公園における遊び

都市公園や児童公園での遊びの種類は、設置している遊具としてブランコ、滑り台、砂場、木製複合遊具（アスレチック）等を活用した遊びや館山城山公園児童遊園（館山市）や堂坂公園（市原市）に設置しているターザンロープなどが挙げられる（小関 2021）。

費用面を考えると砂場遊びに使用するスコップやバケツなどが挙げられる。これに関しては安価なものから高価なものまで販売されている。また広場での鬼ごっこ、しっぽ取り遊びにおいては、費用の発生はほとんど

¹ 専用コートを有するパークを含む

² プレイパーク（冒険遊び場）とは異なる

³ サッカーは、未就学時～小学校6年生までの経験より、バドミントンは、中高の部活動での経験より

ないものと考えられる。

(2) 公営などの施設利用における遊び

公営施設を活用する遊びとしては、室内でのスポーツが主となると考えられ、本稿ではバドミントン（バドミントン）、卓球、バスケットボール、フットサル、ドッチボールなどについて調べてみた【図表1】。施設使用料金（個人使用）⁴は2時間以内の基本料金と追加時間（1時間につき）基本料金の50%の価格が設定されている。2時間以内でバドミントン（バドミントン）や卓球を楽しむ場合、小学生以下470円、中高校生500円、一般620円とワンコイン（500円程度）で汗を流せる。施設使用料の面に関して公営施設であるがゆえである。また本施設に関してはレンタル品も充実している。その他施設利用にあたっては、個人使用共通回数券、共通定期券の設定もある。

【図表1】

スポーツ名	必要なスペース	利用者	施設使用料 2時間以内	主たる必要な道具	レンタル（1回）*1	2時間の遊びに必要な費用
バドミントン (バドミントン)	バドミントン（バドミントン）用コート	一般	¥ 220	ラケット	¥ 100	470～620円
				シャトル	¥ 100	
卓球	卓球台	中・高校生	¥ 100	ラケット	¥ 100	470～620円
				ピンポン玉	¥ 100	
バスケットボール	バスケットコート	小学生以下	¥ 70	バスケットボール	¥ 100	370～520円
フットサル	フットサルコート		記載なし	ボール	記載なし	
ドッチボール	コート1面		記載なし	ボール	記載なし	
専用シューズ1足					¥ 200	

【図表2】

道具	レンタル	購入
卓球ラケット	¥ 60	
卓球ボール（1球）		¥ 390
バドミントンラケット	¥ 110	
シャトル（1羽）		¥ 350
バスケットボール（各種）	¥ 60	
フットサルボール	¥ 60	
バレーボール	¥ 60	
シューズ	¥ 110	

公益財団法人横浜市スポーツ協会が指定管理者を務める横浜市内の施設においても【図表2】に示したよう、レンタル費用は大きな違いはない。バドミントンと卓球の利用2時間ごとの枠があり、一般120円、中学生以下30円⁵で利用ができ、これ以外のスポーツの個人利用はできないと公式WEBサイトで説明されている⁶。

図表1、図表2に示したものの以外に、かしま防災アリーナ（神栖市）の施設⁷によれば、プール・トレーニング室+温浴施設を3時間利用すると市内の住民880円、市外の住民1050円（一般）必要である。小学生・中学生がプール+温浴施設を利用する場合は、2時間で市内270円、市外330円（延長は、市内110円/H、市外130円/H）が必要となる。その他、トレーニングウェアや水着、タオル等必要なものは自身でそろえることとなる。

(3) 屋内の遊び

屋内遊びとしては映画鑑賞、プレイランド、ゲームセンターなどが挙げられる。

⁴ 図表1は、作成資料千葉市スポーツ施設、千葉市都市公園施設、千葉市花見川区花鳥コミュニティセンター指定管理者スポーツクラブN A S「古市場公園スポーツ施設」

https://www.sc-chiba.com/pdf/pricelist/furuichibapark_210426.pdf（閲覧日：2023.1.26）

⁵ 横浜市スポーツ施設条例施行規則第11条で障害を有する者は利用料減免あり

⁶ 公益財団法人 横浜スポーツ協会（指定管理者）「横浜都筑スポーツセンター」

http://www.yssp.or.jp/tsuzuki_sc_yasa/category/top/（最終閲覧日：2023.1.26）

⁷ かしま防災アリーナ公式WEBサイト <https://www.kamisu-arena.com/personal/price/>（最終閲覧日：2023.2.1）

映画鑑賞にかかる費用は平均的に、大人(一般) 1,800 円~2,000 円程度、大学生⁸1,500 円~1,600 円程度、高校生⁹以下小中学生¹⁰、幼児¹¹1,000 円程度の他、シニア割引¹²1,000 円~1,200 円程度、ハンディキャップ割引等や 3D・4DX 鑑賞に必要な諸費用、映画館によっては特別鑑賞設定により通常よりすくし安く鑑賞できる機会などが設定されている。また映画のお供にはポップコーン(350~550 円程度)やドリンク(300 円程度)が定番であり映画鑑賞料金の他 1,000 円程度が必要となる。

プレイランドは屋内で子どもたちが様々な遊びを体験することができる施設である。コスト面では、例えば SK キッズガーデン(千葉市)¹³によれば①年会費 300 円②利用料は、全日時間課金の場合:最初の 1 時間 800 円+以降 1 時間につき 800 円/平日定額の場合:1,000 円¹⁴~1,300 円¹⁵(休日定額は各+100 円)/全日定額 15 字以降利用:1,000 円¹⁶+保護者 500 円/H である。

ゲームセンター・アミューズメントパークは、メダルゲーム、プライズゲーム(クレーンゲーム、UFO キャッチャー)、ビデオゲーム(音楽ゲーム・レースゲーム等)、プリント倶楽部、カードゲーム、知育的な遊びの機械等で遊ぶことができる。メダルゲームは、運営会社によって貸出枚数とそのコストは異なっているが平均すると 1,000 円~1,500 円ぐらいでメダルを借りて遊ぶことが多い。プライズゲームは、100 円~200 円/回(まとめて 500 円での設定もあり)がある。最近では、ぬいぐるみやフィギア以外に果物やお菓子、食品、飲料、アイスなどを得ることもできる機種が設定されている。

3. スケートボード遊びにかかる費用

スケートボードを行う際、かかる費用として一般的に考えられるものは、スケートボードを始める際の初期投資費用として、①玩具/乗り物としてのスケートボードの購入費、②プロテクター、③安全に行うための被服費が挙げられ、安全に乗り始めるための練習をスクールやレッスンを通して行う場合は、④スケートボードのスクール代/レッスン料が必要となる。スクールやレッスンは通常、パークで行われるため、⑤スケートボード・パークへの移動費用(交通費)、⑥パーク利用料/入場料が別途必要となる。これらの交通費とパーク利用料は街中で滑走する者を除けばスケートボードを継続するにあたって必要となる費用である。このほか、継続費には⑦玩具/乗り物として安全にスケートボードに乗り続けるためのメンテナンス等の費用(維持費)、⑧靴・靴下などの消耗品代がかかる。

このほか、スケーター・ファッション、気分をあげる音楽のストリーミング再生とスピーカーやイヤホン代などに別途費用が掛かる。気分をあげる、あるいは、なりたいスケーターと同じファッションや音楽を共有し自身のスタイルを確認する、モチベーションをあげる、スケーターとしての自身をアピールするなどの目的からこれ等の費用はスケーターとしては非常に重要である。また、近年では SNS などを通して憧れのスケーターの動画や、トリックのハウトゥーなどを見ながら練習することもあり、チケット代やスマホ代なども重要なコストとなろう。

⁸ 学生証が多い

⁹ 学生証が多い

¹⁰ 中学生は生徒手帳が多い

¹¹ 作品によると説明がある(参考:US シネマズ <https://cinemax.co.jp/price-discount/> (最終閲覧日:2023.2.1))

¹² 年齢証明ができる者の提示が必要

¹³ SK キッズガーデン 公式 WEB サイト <https://skkids-garden.com/> (最終閲覧日:2023.2.1)

¹⁴ 区分が「よちよち(1.2 歳)とジュニア(小学校 4 年生以上)」

¹⁵ 区分が「キッズ(小学校 3 年生以下)」

¹⁶ 区分設定なし

しかしながら、本稿は安全に子どもがスケートボード遊びを開始・継続する視点からその費用を考察することに主眼を置く。そこで、以下では表1にまとめた①～⑧の費用の概算を明らかにし、スケートボードを始めたい子どもを抱える保護者や、子どもにスケートボードをやってもらいたいと考える保護者にとって、安全にスケートボードを始めるための基本的な費用を明らかにすることを目的とする。

【図表3】 スケートボードを始めるにあたって必要なもの

初期費用	①玩具/乗り物としてのスケートボードの購入費用	スケートボード (板)	グリップテープ (滑り止め)	トラック (車軸)	ウィール (車輪)	ベアリング	
	②プロテクター購入費	ヘルメット	膝あて	肘あて	手首ガード		
	③擦り切れにくいズボンや長袖などの被服費	長ズボン	長袖の上着	運動用の靴 (スケートボード用シューズ「スケシュー」が望ましい)			
④スクール/レッスン費用	インストラクターが主にボランティア/アマチュア	市/パークなどが行う定期的な無料スクール		大会やイベントなど不定期で行う無料スクール			
	インストラクターが主に有償/プロスケーター	市/パーク/ショップなどが行う定期的な有料スクール		大会やイベントなど不定期で行う有料スクール			
	個人レッスン	プロスケーター/レッスンプロによる個別レッスン		アマチュア・愛好家による通じた個人レッスン			
スケートボードを継続する際にかかる維持費	パークへのアクセスにかかる費用	⑤スケートボードをする場所への移動費用 (交通費)					
		⑥パーク利用料/入場料/登録料					
	⑦玩具/乗り物として安全にスケートボードに乗り続けるためのメンテナンス等の維持にかかるもの	メンテナンスに使用するツール :			比較的頻繁に交換が必要なパーツ :		
		T字ツール/ドライバー類	カッター		スケートボードとグリップテープ	ベアリング	
		ベアリングブロー	ねじ切りなど		ビスとナット	ピボットブッシュなど	
頻繁ではないが交換が必要になるパーツ :			カスタマイズに必要なパーツ :				
トラック	キングピン	ブッシュ	ガード	ライザーパッド	ワッシャー		
ウィールなど			ウィール専用スペーサーなど				
⑧靴・靴下などの消耗品	スケシュー	靴ひも	靴の補修材またはグルースティック	インソール	靴下		

(1) スケートボードを始めるにあたって

スケートボードを始めるにあたっては、道具であるスケートボード、安全な服装とプロテクターが重要である。乗ることを覚える段階であれば、近くのスケートボードが禁止されていない公園などで人通りが少なく周りに転倒時にぶつかりそうなものや転倒要因となる枝葉や小石などのない広い場所を探して、保護者が安全確保しながら、手をつなぐなど補助しながら始めることができよう。スケートボードの上でバランスよく立つことができ、片足で地面をけりだして乗るプッシュができることを目指すとよいであろう。

スケートボード上に乗れなくても、プッシュができなくても、パークに行くことは可能であるが、日本のパークの多くが中上級者向けに作られているため、乗る練習をするための広さや構造になっていない (小関・小松 2022, 2023)。そのため、転倒してスケートボードを飛ばすと他のスケーターの転倒に繋がる、他のスケーターが相当なスピードを出す中で乗る練習をするに伴う恐怖心を抱くなどに繋がるのが予測され、ひとまず自力で乗れるようになるとよいであろう。ある程度の速度でプッシュができるがデッキコントロールが未熟な段階では、フラット面の広いパークや緩やかなセクションの多いパークに行くとよいであろう。したがって、初期的段階においては、自宅近くにパークがあるケースを除いてはパークへのアクセスにかかる費用を考える必要はない¹⁷。

なお、購入して直ちにスクールに入ることも可能である。この場合は、「スケートボードに乗ることから教えます」「止まり方、プッシュ、チクタクを習得する」などのワードを手掛かりに未経験者向けのレッスンを選ぶとよいであろう。

¹⁷ 条例にて公園での滑走が一律禁止されているなどの場合は、パークに行き始める必要がある。

(2) スケートボード遊びにかかる費用

①正規にかかるコスト

まずもってスケートボードを始めるにあたっては、スケートボードと安全な恰好が重要となるため、その費用から見ていきたい。

スケートボードは、スケートボード(板、以下、デッキと呼ぶ)に、デッキ面(乗る方の面)に足が滑らないようにするためにグリップテープと呼ばれる紙やすりのシートを張り付け、ボトム面(地面側の面)にトラック(車軸)を前後2か所にとりつけ、そのトラックに前後2つずつ、合計4つのウィール(車輪)にベアリングをはめて装着する構造となっている。

これらをすべてセットされた完成品状態で売られているのがコンプリートデッキである。スケートボードショップが独自に組み立てて販売しているものから、量販するための既製品として作られたものまで多様であるが、購入すれば直ちに乗ることができるのがその魅力である。また、一つ一つのパーツにこだわって組み立てるよりも廉価である。おおむね15,000~30,000円ほどで購入できる。ブランドなどを気にせず、スケートボードに乗りなれるまでじっくりと遊ぶファーストデッキとしては、アクションスポーツの関連商品を中心に扱うスポーツ用品店が初心者の子どもの向けに販売する10,000円前後の価格帯の商品がある。子供向けに作られているが、大人が乗っても安全に遊ぶことができ、乗ることのできる最もリーズナブルなコンプリートデッキであろう。

他方で、コンプリートデッキではなく、カスタムする場合は、全てのパーツを選び、組み上げる必要がある。パーツはどれもピンキリで、上を見ればきりが無い。一般的に流通するデッキはブランド、ブラックデッキ¹⁸か否か、プレスの枚数、使用する素材、工場などにより10,000~20,000万円である。グリップテープは、やすりの肌理、柄があるかないかで多少の値段は異なるがおおむね1,000~2,000円であるが、店舗ではスケートボードカスタムして購入する場合、無地のものが無料となることがある。トラックはブランド、素材、軽量化の有無、強度などにより6,000~20,000万円、ウィールはブランド、大きさ、素材などにより4,000~15,000円、ベアリングはブランド、潤滑、許容回転速度や回転精度などにより1,000~20,000円であろう。1台のスケートボードを組み上げるには、20,000~50,000円程度かかる。なお、ほとんどのスケートボードショップでは、組み上げ工賃を取らない。

スケーターによりかかる費用は異なるが、憧れのスケーターのシグニチャモデルを使うものはデッキにお金をかけ、他方で滑走感を重視するスケーターはトラックとベアリングにお金をかける。スケートボード自体が消耗品であることを知っているため、頻繁に乗るスケーターほどコストカットし、トータル30,000円前後でスケートボードを組む。

これに、スケートボードに転倒時に擦過を防ぐ長袖の被服と、プロテクター一式を揃えることになる。服は、破れてもよい普段使いのもので十分であるが、転倒時の擦過を防ぐために長袖・長ズボンを選ぶとよいであろう。ジャージ生地などの摩擦溶解するものを避け、夏場の暑い時期でなければ少し厚手の布地を選ぶとより安全である。

本格的にスケートボードを始めていないのであれば、靴はスケートボード専用のもにしくなくても、スニーカーなどの運動できる靴であれば十分である。安全のために、指先が露出する草履や不安定なヒールのある靴などは避けることが重要である。したがって、服と靴は新たに買い替えるなどする必要はない。

¹⁸ ブランドが、自社の品質をそのままに、絵柄を施さないことで安価に提供する商品。

プロテクターについては、ヘルメットだけ用意する保護者も少なくないが、転倒時、肘からコンクリートにぶつかり開放骨折するケースなどもあるため、肘・膝・手首を守るガードも重要である。ブランドによって多少、価格帯は異なるものの、ヘルメットは3,000~10,000円、肘・膝・手首ガードは3,000~10,000円程度である。膝ガードは単体で販売されることもあるが、肘と手首ガードは単体での販売がほとんどされていないので、最初にセットでの購入をするとよいであろう。

購入時には必ず、身体にフィットするものを選び、運動時に着用するため、耐衝撃性、伸縮性、通気性などを確認しながら選ぶとよいであろう。このほかヒップパッドなど必要に応じて購入することができる。転倒時に打撲や骨折から身を守るためにも、痛い思いをしないことでスケートボードを継続できる環境を整えるうえでも、平地であれ斜面であれ、プロテクターの着用は重要である。

以上のように、スケートボードを始めるにあたっては、道具をそろえるだけでも20,000~30,000円程度かかることがわかる。決して安くはないことがわかる。

②廉価品購入のリスクとコスト

保護者のなかには、そんな高価な道具でなくても、遊ぶだけだからもっと安くてよいという考えを持つ方も少なくない。しかし、バドミントンや野球のように、廉価な商品であっても安全に遊べる玩具と、自身の全体重をかけて滑走し跳ぶなどを行うスケートボードは異なる。廉価な商品の品質が、技術をあげることが難しい、十分に楽しむことが難しいという運動技能の向上や娯楽性に関わるだけではなく、遊技者の安全性そのものに関連し、擦過、骨折、打撲、最悪の場合死亡事故に至ることを鑑みると、スケートボードに対する知識・技術がない段階での廉価品の選択は安易と言わざるを得ないであろう。

近年のスケートボード人気を受けて、量販店やホームセンター、ECサイトなどでは、2,000千円程度から購入可能なコンプリートデッキが販売されている。いかに廉価であるかがわかろう¹⁹。廉価品のなかには、購入の取りやめなどで返品されたものや、商品としては全く問題がないもののプリントにずれやにじみがあるなど、いわゆる訳あり商品なども混じるため、全てが粗悪品とは限らない²⁰。しかしながら、してはならない部分までコストカットした粗悪品が大部分をしめる現状は否めない。

粗悪品には、トラックの動きが悪くターンが辛い、ベアリングの回りが悪く常にプッシュしないと止まる、デッキや捻じれや節があり折れやすい、デッキのプレスが不十分で接着面がトリックをした際の衝撃によりはがれる、デッキに使用している材木が柔く地面との接触ですぐに削れて短くなってしまふなどが挙げられる²¹。これらは、中上級者であればスケートボードの見た目や乗ったときの感覚からその癖を捉えて、チクタクからオーリー、ショービット程度の基本的なトリックであれば乗りこなすことができる水準の商品である。

しかし、高さやスピードを出して衝撃の激しいトリックをするには、中上級者であっても安全とは言えない。まして初心者にとっては、本来滑走するための道具であるにもかかわらず、車軸のゆがみやベアリングなどの

¹⁹ 近年の人気を受け、一部のショップ、ECサイトなどでは粗悪品にもかかわらず1~2万円などの高価格帯で販売しているケースが見られる。

²⁰ なかには、一見するとブランド品と同じようなロゴやデザイン、形状の偽ブランド品なども流通している。スケートボードに関する知識がない場合は、地域のスケーターが信頼しているショップで相談しながら商品を購入するのが良いであろう。

²¹ 木製のデッキに関しては、捻じれや節は見た目だけでは判別付かず、乗ってわかるケースがある。当たりはずれはブランドや生産工場などとも関連するため、正規品を店頭販売で購入することではずれをひくリスクは低減される。なお、自然物を使うデッキに関していうと、トリックによっては問題なく乗れるため、良心的なECサイトや店舗は、乗ることに支障のない捻じれや節がある旨を伝えて、割引して販売するケースがある。

性能によって滑らない、乗っても動かない、動きにくいなどの場合、滑走しようとして力んで踏み込んだら滑らず、前につんのめって転倒する。滑らないことを前提にじわりと踏み込んだら、思いのほか滑って転倒するなど、操作に必要な筋力や調整力が十分に育っていないために、適切な力加減を加えることが難しい。

結果的に、転倒するだけでなく、うまく滑ることができず滑走する楽しさを経験することができない。本来滑るための玩具で滑らないのだから、当然楽しくない。結果的に、スケートボードをやめてしまう一因となる。

こうした乗ることができる粗悪品の他に、アルミやチタン製であるはずのトラックがプラスチック製²²であったり、本来、弾力性と強度が求められる合板のデッキ部分が破片状にした木材や紙を固めた合板であったり、弾力のないプラスチックだったりするものを見かけることがある。また、デッキにグリップテープが張られていないものや、グリップテープではなく砂を吹き付けて黒く塗っているだけのものなど、明らかに安全性そのものが担保されておらず、乗ることそのものが危険な商品も混じっている。

値段が安いもののなかには、安い理由のある、人がその上に乗る性能を備えていない商品が紛れている。たとえ体重の軽い子どもが乗る場合であっても、粗悪品を利用することによる危険は避けることが望ましいであろう。

さらに、廉価であるからと、プロテクターではなくサポーターを使用するケースもみられる。転倒時にプロテクターをつけていれば守られたケガや痛みを味わうことで、スケートボードが怖くなってやめてしまうケースもある。

③コストを抑えて購入する方法

スケートボードを始めようと思った際、多くの保護者がその値段に驚くのではないだろうか。一見すると変わらない見た目の商品が、天と地ほど値段が異なる。そんなとき、安価な商品を手に取りたくないであろう。

安全に乗るための費用を抑えるのであれば、スクールやパーク、ショップなど、スケーターの集まる場所に一度、足を運んでみて、どのような商品であれば安全かを知ることから始めるとよいであろう。スケートボードの選び方や商品の特性などを知ることができる。

少しの知識があれば、中古ショップを回ると使用感はあっても新品の半額以下の価格帯で安全に乗ることのできるスケートボードが販売されている²³。状態によってはベアリングなどのパーツの交換などが必要なケースもあるが、パーツを買い替えたとしても新品を買うよりははるかに安いであろう。

スケートボードを始めるにあたっては、最もスケートボードにお金がかかるものの、安全かつ楽しめる商品を選ぶことが重要となろう。

(3) スクール/レッスン料

①スクール/レッスンの選び方と料金

子どもがスケートボードを始めるにあたって、一部の経験者を除き、教えられない、どうやればスケートボードに乗れるのかわからないという保護者は少なくないだろう。保護者が教えられないために、子どもが始め

²² スケートボードが普及する段階で、1990年代以前には、製品化の試行錯誤のなかで教科プラスチックが用いられていた時代があるが、そのころにはできるトリックの数も少なく、現在ほど強度が求められていなかった。

²³ 2023年11月、長野市の中古ショップにて、大手ブランドのトラックとデッキの新品で購入すれば25,000円ほどのスケートボードが、3,000円で販売されていた。テールキックに1cmほどの摩耗があったが、ほぼ新品である。手放す人のタイミングによるが、良質な中古品は決して少なくない。

るのをあきらめさせる、躊躇するケースもみられる。このとき、スケートボードに挑戦する一つの方法が、スクールに通うことである。

スクールは、有料・無料、定期開催・不定期開催、固定の会場、会場を選ばないものなど多様である。また、できるトリックや乗り始めてからの経験日数などによりレベルに応じた設定になっているものからレベルわけせず集まった練習生に対応するもの、マンツーマンなどの少人数制から 20~30 人を一度に教えるものまでさまざまである。

さらに、団体によるインストラクター資格はごく一部に存在するものの、基本となる教え方が定まっているわけではない。インストラクターの大部分は、プロライダーや長年スケートボードを楽しんできた経験者が務めることから、教え方には見せて教える、トリックの手順や構造を分解して教える、感覚を伝えて教えるなどばらつきがみられる。オーリーやショービットなどの基本的なトリックが身につけていなければ見ることでトリックを理解してやってみることができるかもしれないし、基本のトリックをスムーズにランの中に取り込んで繰り出すことができるようならより難易度の高いトリックを習得するときに「もうちょっと後ろ足を踏み込む感じで」というように感覚を伝えて教えることも重要である。

とはいえ、乗る感覚そのものが身につけていない段階では、見せる、感覚を伝えて教える方法は適切ではないだろう。足の置き方から姿勢や顔の向きに至るまで乗り方から降り方を教え、トリックの手順や構造を分解して段階的に教えることが求められよう。全くの初心者に教えるのは、インストラクターがプロか否かや、すごいトリックがうまいことよりも、教えるスキルを持っているか否かの方が重要となる。こうした点では、レッスン経験の豊富さや、口コミなどで分かりやすい、初心者優しいといった評判が頼りとなる。

スクールやレッスンは、パーク同様に近年増加傾向にあるが、居住地域によっては選択することが難しいであろう。複数のスクールが近くにある場合は、アクセスのしやすさ、教える方のキャリア、レベルに応じたクラス分け、レッスンの時間、価格帯で選ぶこととなる²⁴。近くに、公共のスケートボード・パークが運営する無料²⁵ないしは 1 回 2,000 円程度の安価なレッスンがあれば、一度行ってみるとよいであろう。また、ショップでスケートボードを購入すると得点として提携先のパークで無料レッスンが受けられるケースがある。大会や競技会、アクションスポーツの普及イベントなどでは体験会や無料レッスンが受けられる場合がある。こうしたものにアクセスし、どのようなレッスンがされているのかを知るのも一つの手であろう。

有料のスクールは、主に私設のパークで行われる。レッスンの人数と時間帯、インストラクターのキャリアなどによって価格帯は異なる。10~20 名ほどで 1 回あたり 1 時間~1 時間半のレッスンで²⁶、1 人当たり 2~5 千円が相場である。プロによるマンツーマン・レッスンの場合、1 時間 3,000~10,000 円程度が相場であろう。

なお、スクールによってはレンタルのスケートボードやプロテクターが有料・無料で用意されているケースもある。スケートボードを購入する前に、体験してみて、続けたいかどうかを考えてから購入するのも一つであろう。

²⁴ スケートボードはアクションスポーツであるため、保険に加入しているスクールは非常に少ない。公園の保険が適応されるかなどの確認もすることながら、プロテクターをつけ、無理をしない/させないケガ予防も重要である。また、スクールの参加の際には保険証を持っていくなど、不測の事態にも備えておくことが欠かせない。

²⁵ 条例にて公園内でのスケートボードが禁止されている千葉市の隣接市である市原市にあるオリプリランドでは有志によって、毎月 2 回、人数限定の無料のスクールが開催されている。https://www.kazusa-sarashina.com/

²⁶ レッスン時間は通常 1~1.5 時間程度であるが、スケートボードに乗る体力や体幹が育っていない段階で長時間練習すると、思わぬケガなどにつながるため、無理をしない/させないレッスン内容と時間配分が大事である。特に年齢層が低い子どもの場合は、集中できる時間も短いため、ゲームやきめ細やかなショートステップとともに、休憩、保護者に成長を見せる時間などが準備されているとよいであろう。

また、近年、スケートボード協会やスクールなどの個人レッスンとは別に、SNS などを通じて個人レッスンを主宰するスケーターが見られる。自宅近くに来てくれたり、滑走したいパークで落ち合うなどその利便性は非常に高いが、他方で、そのスケーターの実績や安全配慮、事故などの責任の所在、実費とレッスン料の境などが不明瞭であることが多い²⁷。まずは信頼できる、何かあったときに責任の所在がはっきりとしているレッスンを選ぶとよいであろう。

②レッスンを受けるにあたって

スクール/レッスンのほとんどは、少人数の時間制で行われる。初心者クラスといっても、まったくの未経験者からチクタクができる者までばらつきのある受講生が集まる。インストラクターは通常 1、2 名であるため、限られた時間で技術を習得しようとする、第一にスクールに参加する際には、乗り方から分からない、プッシュはできるがチクタクができない、オーリーやショービットをやりたいなど、どの程度できて、何をやりたいのかを明確にしていくとよいであろう。スケートボードはある動作ができていなければ身に着けることができないトリックがあるため、やりたいこととならんで、何ができているのかをインストラクターが知っていることは重要である²⁸。できることに応じて練習メニューを組むだけでなく、体力を鑑みて休憩を適宜入れるなど、ケガをしにくいレクチャーの実現にとっても重要となる。

第二に、スクールやレッスンで習ったことを、パークや自宅近くの滑走可能な場所で反復することが上達には欠かせない。レッスン中につかんだコツも、次のレッスンまでの間に一度も練習しなければ、忘れてしまうこともあれば、そのトリックを行うために必要とされる筋力や調整力が育っていないために次のトリックに移行しがたくなる。

スクールの多くは、スケートボード・パークのなかで行われたため、そこへのアクセスやパークの入場料などがかかる。スクールの参加者は、スクールのあとの時間のパーク利用料が無料や割引される場合があるため、練習の機会として利用するとよいであろう。上達に欠かせない反復練習は、子どもによってはスクールと同じ環境で反復する方が習得しやすい場合がある。レッスン以外の日も、定期的に通うことのできるパークのスクールを選ぶとよいであろう。

(4) スケートボードを継続するために必要な費用

①デッキと靴などの消耗品にかかる費用

スケートボードに乗り始めて、デッキの上でバランスをとり、滑走できるようになると、滑走そのものを楽しんだり、オーリーやショービットと呼ばれるトリック、ランプやボウル、ステアやカーブボックスなどを使った滑走など様々な楽しみ方へと遊技・競技は発展する。遊びが発展するにしたがって、速度は早まり、跳ぶ高さも増していく。そのため、デッキや各種パーツはもちろんのこと、靴や被服などの破損や消耗が生じる。デッキはウィリーなどの練習やオーリーなどの練習で、テールやノーズの擦り減りやチップと呼ばれる小さな亀裂、繰り返す衝撃と湿気などによりアールの部分の接着が浮く、はじきが悪くなるなどで交換が必要となる。

²⁷ 小松はインスタグラムで「オーリー教えます。1時間2千円、移動費別」などを見かけることがあるが、そのスケーターのオーリーは飛んでいるものの着地の足が伸びているなど決してうまいとは言えず、彼の解説も雑駁だった。むしろ、「近くで滑っていたら気軽に声をかけてください。一緒に滑りましょう」とするスケーターの方がうまく、解説もわかりやすい場合もあり、SNS を通じた有料の個人レッスンには疑問の余地がある。

²⁸ パークでは、プッシュやチクタクができない子どもにオーリーの練習を始めさせる保護者をまれに見かけるが、デッキの上でバランスをとって滑走できない段階で、デッキの上でジャンプを強要するのは非常に危険である。

乗る頻度や乗り方、保管の仕方、天候などによって変わるものの、トリックをあまりやらず、持ちがよいとはじめて1~2年程度は交換不要な場合もあるが、消耗が早いと1か月に1回の交換を要する。

デッキと並んで消耗するのが、靴と靴下、靴紐である。靴は、ブレーキングなどで地面と靴底をこすりあわせて消耗したり、グリップテープに接してトリックをする際に摩耗するため、先芯やアッパー、はと目、靴底などに穴があく。穴ができないように補強したり、穴をふさいだりするため、靴の補修材を使ったり、ライターでグルーステックを炙って塗り付けるなどする。靴紐も同様に、替えを用意するだけでなく、切れないように接着剤をしみこませたり、シリコン製のものを利用するなど長持ちさせる工夫をしたりする。

靴や靴下、インソールはコンクリートや板の上で飛ぶなどする負荷の高い動きを繰り返し行うことから、足を守るためには必要不可欠な道具である。いわゆるスケシューと呼ばれる、消耗しにくいヌバック皮のアッパーで、グリップテープに食いつくけれども引っかからない凹凸が細かく起伏の小さなアウトソールのものがあるが、これらは安いもので数千~1万円する。アッパーが布の比較的安価な価格帯のものから希少性が高くコレクターのいる商品まで多岐に渡るが、トリックができるようになると消耗が激しく、1~2か月に1足程度の交換が必要となるため、デッキと並んで靴は頻繁に購入することとなる。成長途中の子どもにとっては靴を前もって購入しておくことは難しいため、底値の時期に買うなどできない商品でもある²⁹。

② やりたいことを実現するカスタマイズにかかる費用

こうした定期的な大きな金額の動く消耗品の交換とともに、スケートボードでは、やりたいことに応じてパーツを交換するカスタマイズやメンテナンスが必要となる。したがって、自身の遊技・競技レベルの発展に伴って、パーツの機能や役割、性能に関する知識と、それらを操って何をどう操作する知識・技術、カスタム・メンテナンスの技術なども必要となる(小関・小松 2023)。

メンテナンスは、スケートボードの状態を見ながら、基本的に滑走前と滑走後に行い、必要とするパーツは事前に予測立てて購入して、管理しておく必要がある。カスタマイズは滑走に応じて滑走中に行うこともあるが、同様に行いたいトリックや路面などの状況に応じて、必要とするパーツは事前に準備しておく必要がある。

例えば、路面がアスファルトのように凹凸の激しい場所であればウィールをより弾力性の高い柔らかなソフトウィールに変え、逆にコンクリートパークのように整備された場所であればハードウィールに変えるなどである。路面の状況に応じてウィールを変えることで、足への衝撃を軽減して疲労骨折を防いだり、滑走時の転倒を予防したりすることができる。

どこまで道具の性能に頼り、どこからは身体技能を伸ばすことで補うかなど経済的な状況とやりたいことを比較検討しながらのカスタマイズとなるが、少なくとも安全に滑走するために、パーツの特性や機能を知り、使い分ける知識を備えておくことは重要である。

③ パークの利用料とアクセスにかかる費用

以上のように、スケーターは、複数のパーツをスケートボードとは別個に持ち運ぶこととなる。スケートボードはデッキやトラックの重さによって多少異なるものの、スケートボードだけで約2キログラムに達する。子どもが担いで歩く場合、それだけでも相当な負担になることがわかるであろう。

多くのスケーターが自家用車を利用するゆえんでもある。公共交通機関を利用する場合は、スケートボード

²⁹ 消耗が激しく、決して安価ではないことから、デッキと靴はスケートボードを行う者にとって、商品提供するスポンサーが付くことは憧れであり、有能なスケーターであることを示す一つの指標のような役割を持っている。

にプロテクター、ツールなどの一式を入れるバッグを利用するか、スケートボードをカバーで覆って持ち込むなど、他の利用者への配慮が必要となる。

なお、パークは、公共交通機関ではアクセスしにくい場所に位置することが多い (小関・小松 2022b)。生活圏内にパークがないことも、主な移動手段が自家用車となる背景の一つである。したがって、保護者の送迎がない場合、近くにパークがあるごく一部の者をのぞいて、子どもがスケートボードを続けることは容易ではない (小関・小松 2021、2022b)。移動にかかる金銭的費用のみならず、移動にかかる時間、体力、安全確保といった面でも、移動が困難となるためである。子どものスケートボードの継続のためには保護者の送迎という援助が欠かせないのである。

このほか、パークの利用料金あるいは入場料金が必要となる (図表 4)。公設のスケートボード・パークであれば、1 回あたりの利用料金が、子どもは無料あるいは数百円といったところが一般的である³⁰。大人が数百円から千円程度である。民営のスケートボード・パークは、1 時間 500 円～1 日数千円のところまであり、日々の利用を考えると子どものお小遣いの範囲では収まらない。利用料金のみ徴収のスケートボード・パークのほか、年間使用料や登録料が別途必要となるパークや、登録料は必要ないものの身分証明書などの提示と書類の記入など大人の付き添いがなければ利用を開始できないようなパークもある。

小学生以下など一定の年齢に達していない子どもの場合は、保護者の同伴を要するため、パークの利用に際しては、子どもの移動をクリアできたとしても、保護者の同伴が前提となることがある。

子どもが滑ってもよいと公に認められた場所でスケートボードをするには、パークが野球場やテニスコートのように相当数増えない限り、保護者の協力なくしては実現しない。

³⁰ 前掲のオリプリランドの利用料金は、1 日 200 円 (中学生以下は無料) で、無料駐車場が併設されている。2022 年 4 月に開設した千葉市蘇我スポーツ公園の利用料金は、1 日 400 円、4 時間以内 200 円で、小中学生は半額となる。

【図表 4】千葉県内一部施設の利用料金一覧表

地域	公園名	時期 特記事項	開園時間	閉園時間	利用料金			
					一般		小中学生	
					4時間以内	終日	4時間以内	終日
千葉市	フクダ電子ボードエリア (千葉市蘇我スポーツ公園) https://sogasportspark.com/pages/222/		9時00分	19時00分	¥ 200	¥ 400	¥ 100	¥ 200
市原市	スケートコートオリブランド https://www.kazusa-sarashina.com/guide	4月～11月	9時00分	21時00分		¥ 200	無料	
		12月～3月	11時00分	19時00分				
市川市	塩浜第二公園スケートパーク場 https://www.city.ichikawa.lg.jp/gyo07/1111000012.html	10月～5月	9時00分	17時00分	無料			
		6月～9月	9時00分	19時00分				
八千代市	八千代総合運動公園スケートボード広場 https://www.city.yachiyo.chiba.jp/142500/page100099.html	3.4.9.10月	9時00分	18時00分				
		5月～8月	9時00分	19時00分				
		11月～2月	9時00分	16時00分				
浦安市	浦安舞浜スケートパーク https://www.urayasu-zaidan.or.jp/undo/1001494/index.html	原則	9時00分	17時00分	市内	¥ 220	市内	¥ 110
		土日/季節変動あり			市外	¥ 330	市外	¥ 160
野田市	野田市総合公園スケートボードパーク https://www.city.noda.chiba.jp/shisetsu/kouen/1001068.html	同	9時00分	18時00分	無料			
柏市	柏しょうなんゆめファームスケートボードパーク https://www.yumefarm.jp/facility/skateboard	平日	10時00分	17時00分	土日祝日の前日		¥ 1,500	
		土/休日前	10時00分	21時00分	土日祝日	¥ 900	平日	¥ 700
成田市	成田大谷津運動公園スケートパーク https://www.city.narita.chiba.jp/bunka_sports/page	5/1～8/30	9時00分	19時00分	無料			
		上記以外	9時00分	19時00分				
佐倉市	LIFEパーク https://lifepark-sakura.com/	平日	12時00分	22時00分		1時間	3時間	1日
		日祝日	10時00分	22時00分	会員	¥ 500	¥ 1,200	¥ 1,800
		土日祝日 *翌日が	10時00分	23時00分	非会員	¥ 800	¥ 1,500	¥ 2,000
旭市	dogs skate park https://yataimurakouen.business.site/		9時00分	21時00分	フリータイム		¥ 500	
山武市	県立蓮沼海浜公園ローラースケート場 https://www.pref.chiba.lg.jp/kouen/toshikouen/guidemap/hasunuma/hasunuma.html	※日没	9時00分	17時00分	無料			
木更津市	潮浜公園スケートパーク https://www.city.kisarazu.lg.jp/shokai/shisetsu/kouen/		日の出	日没				

参考資料：千葉県WEBサイト「千葉県内のスケートボード場」<https://www.pref.chiba.lg.jp/shousupo/new-sports/skateboarding-field.html>より抽出し作成した (最終確認日：2023年3月20日)

(5) スケートボード競技にかかる費用

スケートボードの継続には、遊技・競技の技術が向上すればするほど、デッキや靴などの購入にかかる費用、カスタマイズに要する費用、パーク利用料とそこへのアクセスへの金銭的・時間的負担といったものが伴うようになる。1月にデッキと靴を交換すると、それだけで10,000～20,000円かかり、パークが近くにない場合は移動に関しても費用が掛かることとなる。

パークまで1時間程度かかるとすると、毎回の往復の交通費は1,000円以上となる。毎週末を公設のパークに行くとするなら、交通と利用料で最低でも10,000円程度となろう。このほかに、上達のためにスクールに継続的に通う場合、そのレッスン料がプラスされる。大型のランプやボウルなど専用パークに通うために毎週末、県外へと移動するとなれば、より費用がかかる。

スケートボードが上達するなかで、スケートボード競技へと参加すると、その参加費と大会への交通費などもかかる。スクールに通う場合、スクール内の競技会への出場などを通して、自身が磨いてきた技術を見せる場としての競技会への参加を楽しむ子どももいる。また、スクールやパークのなかには、大会のプロモーターとの関係があり、競技者の育成を目的の一部としているところもある。こうした場合、そこに通うスケーターに参加が呼び掛けられ、大会への参加に興味を持つ機会がある。

スケートボードの競技は遊技の延長線上にあるが、競技へ参加し始めると、費用は格段に上がる。専用パークでのトレーニングやレッスン、遠征、競技会への参加費用などが上乘せされることとなる。また、競技を通してスポンサードされると、提供品と同じ物を利用する必要があり、提供量と消費量が同じであればよいが、提供量を上回ってデッキや靴などを消耗する場合、その購入費用がかえってかかるなどのケースも生じうる。

4. むすびに代えて

2019 年末からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行による自粛により子どもが屋外で一人で、遊べる限られた遊びとして注目され、また、オリンピック効果により子どもの習いごとや遊技・競技として注目を浴びたスケートボードではあるが、子どもが安全に始めて継続するにあたっては、前述のようにスケートボードは決して安くはない遊びである。もちろん、映画や旅行などに行くことを考えれば、安価ではあるものの、映画やプレイランド、ゲームセンター・アミューズメントパークでの遊びは一時的なものであり、連続的な活動としてのスケートボードとは異なっている。スケートボードは、消耗品の定期的な交換、目指す滑走を実現するためのカスタマイズ費用など、保護者の理解なくして子どもが単独で継続するのは難しい遊びといえよう。特に、パークへのアクセスを鑑みると、パークの数が限られるなか (小関・小松 2022, 2023)、小中学生にとっては保護者による送迎や見守りが欠かせない。同時に、中高生にとっては、有料のパークの利用料の補助なくして、スケートボードを継続することは容易ではない。

今日、新設される、あるいは既存施設の転用などで整備されるスケートボード・パークが増えつつある一方で、公設パークの中にも、委託事業として有料化するケースもみられる。パークが増加したとしても、金銭的などの理由から子どもがそこへアクセスできなければ、自宅前の道路や禁止された公園でスケートボードを行ないかねない。スケートボードがあればいつでもどこでもできる反面、そのスケートボードは決して安価ではない。規制がされるなかで、安全に子どもがスケートボードできる環境のためには、換言すれば、整備されたパークでスケートボードをすることによる社会全体の安全の構築のためには、スケートボードにかかる現実的な費用の理解と費用負担を社会全体が考えていくことが必要不可欠であろう。

環境整備を通して、子どもが学校終わりに自分でスケートボードをしに行くことができるようになっていくことが今後求められるのではないだろうか。

参考文献一覧

早川礎子・小関慶太・磯崎えり奈「都市公園とこどもの遊びの予備的研究-冒険遊び場を題材に」『小田原短期大学研究紀要 (51)』(2021)

小関慶太「子どもの遊びと環境の公園研究 (1) -観察調査より幼児と環境-」『リカレント研究論集 (創刊号)』(2021)

小関慶太・小松仁美「若者カルチャーからの学びと犯罪予防 (1) -スケートボード利用者への量的調査より-」『八洲論叢 (創刊号)』(2021)

『リカレント研究論集 (3)』(2023. 3)

子どもの遊びとスケートボード (1) -スケートボードと他の遊びのコストの比較- (小関慶太・小松仁美)

小関慶太・小松仁美「若者カルチャーからの学びと犯罪予防 (2) -マナー、社会秩序と規範-」『八洲学園大学紀要 (第 18 号)』(2022)

小関慶太・小松仁美 b「若者カルチャーからの学びと犯罪予防 (3) -スケートパークの整備と観察調査-」『八洲論叢 (第 2 号)』(2022)

小関慶太「子どもの遊びと環境の公園研究 (2) -スケートボードパークと子どもの権利-」『リカレント研究論集 (第 3 号)』(2023)

小関慶太・小松仁美『スケートボード研究 (1)』(日本マネジメント総合研究所、2023)

受理日：2023 年 2 月 3 日

小関 慶太
八洲学園大学 生涯学習学部 准教授

小松 仁美
清泉女学院短期大学 幼児教育学科 専任講師